

# 今月の星空



川口市立科学館  
Kawaguchi Science Museum

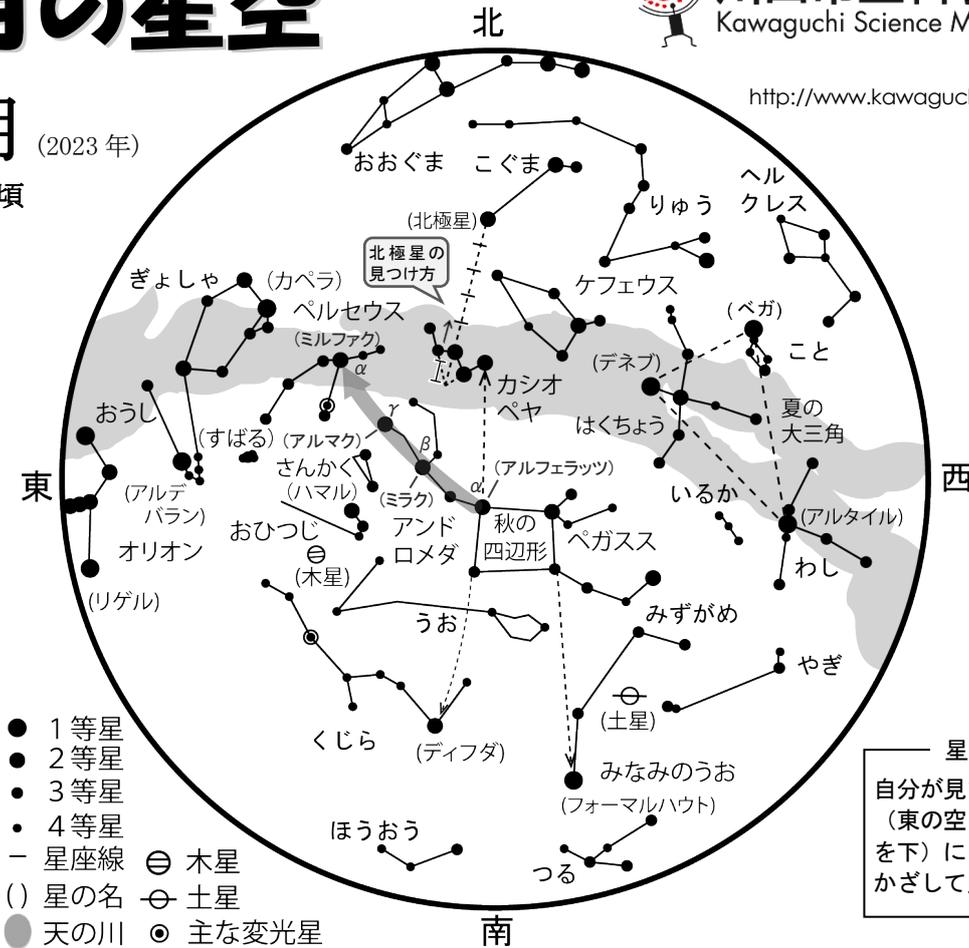


tel 048(262)8431

http://www.kawaguchi.science.museum/

11月 (2023年)

中旬 20時頃



星図の見方  
自分が見ている方向を下  
(東の空を見るときは東  
を下)にして、頭の上にかざして見ます。

月 齢 ⊕ 下弦 5日、● 新月 13日、⊕ 上弦 20日、○ 満月 27日

## 惑星情報

金星 日の出前 南東(しし座→おとめ座 -4等) 木星 夜のはじめ頃 東→南東(おひつじ座 -3等)

土星 夜のはじめ頃 南→南西(みずがめ座 1等)

## ★東の空で秋の星座さがし

秋の四辺形が天頂付近に昇り、秋の星座を見つけやすくなりました。明るい星がまばらな南の空に比べ、東の空は明るい星が多くあります。星図のとおり、秋の四辺形の一つ、アンドロメダ座α星「アルフェラッツ (2.1等)」から北東方向の下方へβ星「ミラク (2.1等)」→γ星「アルマク (2.1等)」→ペルセウス座α星「ミルファク (1.8等)」へと、同じような間隔で緩いカーブ\*1を描いて星をつなぐことができます。そのカーブを境に、北側にはカシオペヤ座、南側にはひとときわ明るい木星やその近くにあるおひつじ座の「ハマル (2.0等)」が見つかります。

※1「秋の星座博物館」(山田 卓 著、地人書店)では、「秋の大曲線」と名づけている。

## ★木星の観望シーズン

太陽系最大の惑星、木星が3日に衝\*2を迎え、見ごろです。来年の3月頃までは宵の空で見ることができますが、明るさや見かけの大きさ(視直径)に関しては、衝の頃が観望におすすめです。例えば、11月は来年3月と比べると、視直径は約4割大きく(11月約49秒角⇔3月約35秒角)、明るさは約2倍明るく(11月-2.9等⇔3月-2.1等)見えます。望遠鏡では、木星の特徴である縞模様や大赤斑、木星を回るガリレオ衛星を見つけることができます。

※2 衝(しょう)…地球から見て惑星が太陽の反対側に来るとき。地球に最も近づく頃。



木星  
(探査機カッシーニ撮影)  
©NASA/JPL/University of Arizona

## 個性豊かなガリレオ衛星～1610年にガリレオ・ガリレイにより観測された4大衛星～

衛星名	直径 / 月との比[倍]	公転周期	特徴
イオ	3,632km / 1.05	約1日18時間	木星に最も近い衛星で多くの活火山がある
エウロパ	3,138km / 0.90	約3日13時間	表面を覆う厚い氷の下に地下海(水)の存在が予想される
ガニメデ	5,262km / 1.51	約7日4時間	太陽系最大の衛星で、衛星唯一の固有の磁場を持つ
カリスト	4,820km / 1.39	約16日17時間	氷で覆われた表面には多くの衝突クレーターがある